

# Tokyo Motor Show

## No.17

東京モーターショーニュース

2003年10月27日発行

主催：日本自動車工業会、日本自動車ショー協会

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本橋三井ビルディング

Organized by: Japanese Automobile Industry Association, Japan Automobile Show Association, Inc.  
1-1-1 Nishi-Shinjuku Building, 3rd Floor, 1-1-1 Nishi-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 100-0001, JAPAN

TEL: 03-3211-8001 FAX: 03-3211-5356 E-MAIL: info@jama.or.jp

JAMA



一般公開2日目は開幕してから初めての日曜日、晴天にも恵まれ来場者の出足は好調で、特に若いカップルや子供連れ家族が目立っていた。今回はお客様参加型ショーということからクルマに関連する様々なイベントが屋外で催されている。このため入場者の多い休日だったが、屋内のクルマ展示と屋外イベントにバランスよく人が分散しており、ショーを楽しんでいる姿が見られた。

# テーマは「環境と感動」

## 近未来の“ECO”を予感

「環境への配慮」、「人への優しさ」、「クルマの本質的な魅力である走る喜び」、そして、「使う楽しさ」——。これらのニーズをうまく組み合わせた新しいコンセプトのハイブリッドテクノロジーを提案。近未来の“ECO”を予感させるブースだ。

 **TOYOTA**

今回のテーマは「環境と感動」。東ホールの半分近くの広いスペースをトヨタグループが占めており、トヨタはF1レーシングカーなどを含む参考出品車10車種12台、市販乗用車21台の計33台を展示している。ブース中央にはシルバーメタリックを基調としたスタジアム風のステージを特設。45分間隔で繰り広げる「ECO×EMOTION」のプレゼンテーションは大人気で、人垣で場外まで埋め尽くされるほどの盛況ぶり。このステージで紹介しているコンセプトカーは、「Fine-N」、「CS&S」、「SU-HV1」、そして「PM」。環境・安全技術とドライビングプレジャーの両立を目指す“トヨタイズム”を主張する新しいハイブリッド技術のオンパレードだ。

なかでも、注目されるのは高い技術水準を誇る環境対応モデル。燃料電池ハイブリッド車の「Fine-N」は、扱

いのむずかしい水素エネルギーを使う薄型の燃料電池ユニットに、ハイブリッドシステムを合体させた究極のモデル。しかも、ホイールの内側にモーターを搭載し4輪を自律的に制御することで、安定性を飛躍的に高め、思いのままのコーナーリングなどが可能になるという。

「CS&S」は電気モーターとガソリンエンジンを併用する新世代のハイブリッドシステム「THSII」を運転席後方に搭載。E-Four（電気式4WD）との組み合わせで優れた環境性能のみならず、ファントムドライブも追求したスポーツマインドに溢れる新世代モデルだ。

「SU-HV1」は新設計のSUV用ハイブリッドシステムと電気式4WDによって、SUVとしては世界トップクラスの低排出ガスと、ベース車両の2倍となるコンパクトクラス並みの燃費性能を持たせているのが特徴。



## パーソナル・モビリティ「PM」に人気

デモストレーションで最も熱い視線を浴びているのは、ボディの色を変え、カタチを変えてステージを走り回る可愛らしい一人乗りの「PM」。「PM」はパーソナルモビリティの略。ドライバーはモビルスーツのごとくキャノピーに収まり、手足の動きで車体をコントロールする。低速時はキャビンが立った状態で走行。速度が上がるにつれ、キャビンが横倒しになって空力をかせぎ、ホイールベースが伸びて直進性が確保される。

「である、つながる、あつまる」をコンセプトとし、最先端の情報通信技術を駆使しながら、“人とクルマの一体化”、“クルマとクルマのふれあい”を追求しながら、まったく新しいモビリティ社会を提案している。



ステージでは「PM」のデモストレーションが人気のマト



日本で展開されるレクサス店に導入予定のニューモデル「LF-S」

## 初の「レクサス」展示スペースも

一方、市販化へのスタディモデルは、次世代高級セダン「CROWN CONCEPT」のほか、独立したレクサス展示スペースを初めて設けており、レクサスブランドのプレミアムセダン「LF-S」と新SUV「LF-X」を展示。いずれも2005年から国内で展開するレクサス店に導入する予定のモデルであり、注目度が高い。

環境性能などをわかりやすく理解してもらうため、カットモデルなどの展示も多い。右は「Fine-N」とワイヤーフレームボディ



新世代ハイブリッド技術の展示

独立したレクサス展示コーナーを新設。東ホールの広いスペースを占めるトヨタ



## ブランド変革アピールし、日本市場での拡販を意識 フォルクスワーゲン

日本国内市場の輸入車ブランド別販売でトップのフォルクスワーゲン（VW）が東京モーターショーにフルラインナップをそろえた。コーナー前面両端に、コンセプトカー「コンセプトR」と来年発表予定の新型「ゴルフ」を配し、新開発のミニバン「トゥーラン」や「マルチバン」のほか、今年日本市場に登場したばかりの「ニュービートル カブリオレ」やSUV「トゥアレグ」などを展示。日本市場での販売拡大を意識するとともに、「変革を遂げるVW」をアピールしている。

特に、ブランド変革の流れをイメージさせる「コンセプトR」は、VWが提案するスポーツカー。「新しい、シャープなラインで締めりある立体感」（ピシエツリリーダー会長）という躍動的なボディにV6・3.2リッター・265馬力エンジンを搭載し、6速ダイレクトシフトギアボックスを採用、理論最高時速270kmとされている。

今年8月にドイツ本国で発表されたばかりの新型「ゴルフ」は、6年ぶりにフルチェンジした5代目モデル。これまでよりボディサイズを拡大して居住性を高めているほか、安全性はもとより、「楽しく運転できる」（同）など、車としての魅力も向上している。「トゥーラン」はこの新型「ゴルフ」をベースにした2列と3列シートが選べるマルチパーパスビークルである。



VWが提案する新たなスポーツカー、2シーター・ロードスター「コンセプトR」



6年ぶりにフルチェンジし来年日本市場に登場する新型「ゴルフ」



## 高級車メーカーから 究極の英国製GTが 日本初お目見え

イギリスの高級車メーカーとしての伝統と実績と、ル・マンでの栄光を背景に来春登場する「コンチネンタルGT」。高水準の上品さとクラフトマンシップ、ドライバーの快適性と操作性のよさを実現した「究極の英国製グランドツアラー」である。

W12・6.0リッター・ツインターボ過給のエンジンは560馬力を発揮する。フルタイム4駆の4シータークーペだが、ベントレーに生じている「変化」を象徴するイメージリーダーモデルとしての風格を備えている。

コーナーにはこのほかに、V8・6.75リッター・ツインターボ過給の最高級サルーン「アルナージT」も展示され、プレステージカーメーカーらしい印象をかもし出している。



伝統的な技法によるハンドメイドで送り出された「コンチネンタルGT」



## 世界最高速スポーツ、 1001馬力の 迫力モデル

ブガッティ

「世界最高速」を謳うブガッティ「ヴェイロン 16.4」。強烈な印象を与えるスタイルと赤と黒のツートンのボディもさることながら、W16・7.99リッター・ターボ過給で1001馬力という迫力のモデルだ。最高時速は406km、0-300km/hは14秒未満という。「これ以上の出力は、構造上、限界」といわれる実力を持っている。

カーボンファイバー一体構造のボディは、軽量化を図るとともに高速走行を前提に設計され、高速時での減速の際、パラシュートの役割を果たすリアウイングなど、独特の装備を採用している。また、インテリアは高級メタル・アプリケーションや見やすい配置の操作エレメントも特徴。まさにスポーツカーの王者の風格を備えている。



スポーツカーの王者の風格を持つブガッティ「ヴェイロン 16.4」



# 叫ベデザイン！ 吼えるニッポン！



- パネリスト**【午前の部】 F1レーサー 佐藤 琢磨氏  
 デザイナー コシノジュンコ氏
- パネリスト**【午後の部】 御園秀一氏(トヨタ自動車デザイン本部)  
 中村史郎氏(日産自動車デザイン本部)  
 宇井與志男氏(本田技術研究所和光研究所)  
 オリビエ・ブーレイ氏(三菱自動車工業デザイン本部)  
 モーリー・キャラム氏(マツダデザイン本部)  
 吉村等氏(スズキ商品企画統括部)  
**司 会** デザインジャーナリスト 有元正存氏

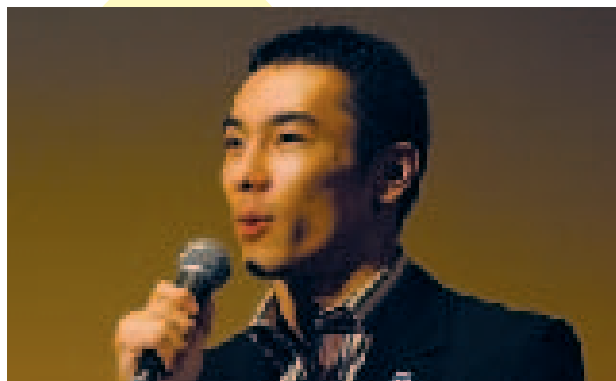
## 「デザインの根本は対極の美と余白の美」(コシノ氏)

**【午前の部】**  
 佐藤氏とコシノ氏が有元氏とそれぞれ対談、佐藤氏は「モチベーションを高く維持することで実績がついてくる」と、またコシノ氏は「デザインの根本は対極の美と余白の美である」と語った。

**【午後の部】**  
 有元氏の質問に各氏が答える形でシンポジウムが進められた。有元氏は最初に「今回のモーターショーを見て、どの車がよかったか」とストレートに質問、続いて「逆にどの車にモノ申したいと思ったか」と繰り返し、6氏の本音を引き出した。

重ねて「デザイン面で他社との差別化をはかるためにどんなことを心がけているか」と迫ったのに対し、「コンパクトカーのさらなる追求」(吉村氏)、「予見性」(御園氏)など、各氏ともそれぞれ手の内を明かした。最後に「未来に向けカーデザインはどのような方向に進んでいくか」との質問に回答が出そろったところでタイムオーバー。

この後、リスナーとの質疑応答に移った。熱心な質問が相次ぎ、予定時間を30分も越えて閉会となった。



佐藤琢磨氏



コシノジュンコ氏

## 今日のイベント(予定)

### ★ シンポジウム

- 13:30~15:30 自動車業界電子商取引データ交換の標準化推進  
 (国際会議場2階・201号室)
- 15:30~17:00 交通事故と救命救急医療  
 (国際会議場2階・国際会議室)

### ★ Bay FM

11:15~11:45 フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

### ★ フィエスタ・マリスコス

- 13:00~13:30  
 15:00~15:30  
 17:30~18:00 } フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

### ★ トライアル2輪デモ

- 13:45~14:45  
 15:45~16:45 } フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

### ★ クリーンエネルギー車同乗試乗会

10:30~16:30 環境体験ランド(幕張海浜公園)

## TOPICS プロが本気でチビッコ大満足 拍手 拍手 拍手

「トラフィック戦隊アンゼンジャー」ショー



座席は子供連れのヤングパパ・ママで埋まり、その周りを十重二十重に立ち見の人たち。真剣な視線の先はと見ればそこはステージ。いま「トラフィック戦隊アンゼンジャー」ショーが佳境を迎えたところ。ここがモーターショーの会場?と疑いたくなるような雰囲気。

交通妨害を企てる一味を、大安全マンが女性戦士シグナレディズ3人と力を合わせて懲らしめるというストーリー。派手なアクションに大音響。大安全マンがミエをきるとチビッコが拍手、パパとママも拍手・拍手(土、日、祝日開催。場所はフェスティバルパーク)。

ショーの後、チビッコだけで安全体操第一。ステージの上と下に分かれて体を動かす。終わるとシールをもらって、チビッコはだ〜い満足。迫真のアクションに大人も引き込まれてしまうが、実をいうとこの舞台のディレクター(は北野武監督作品「座頭市」の殺陣を担当したかの二家本(にかもと)辰巳さん。「大人が全力で演技するから子供が交通安全の必要性を理解してくれる」。

10月26日の入場者数 **145,000人**

入場者数合計 **314,500人**

「オンデマンドって何?」と改めてお知りになりたい方もご覧ください。

必要時に、必要な分だけ供給できる印刷手法を事例や解説で理解できます。

DocuPlaza (ドキュプラザ) <http://www.docu-plaza.com/>

## Color DocuTech 60

機材協力: 富士ゼロックス株式会社  
 用紙協力: 富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社

このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。

eCOAT105  
 THE DOCUMENT COMPANY  
**FUJI XEROX**